臨床化学　38：140－151，2009

委員会報告

血清25ヒドロキシビタミンD測定の標準化に関する日本臨床化学会栄養専門委員会の見解

日本臨床化学会　栄養専門委員会

渭原　博[1]，岡野登志夫[2]，橋詰直孝[3]，戸谷誠之[4]，上岡千介[5]，
恩田きみ子[5]，砂原誠司[5]，鈴木智子[6]，板橋光春[6]，青木芳和[7]，
石橋みどり[8]，伊藤昭三[9]，大橋鉱二[10]，榎本　毅[11]，斎藤憲祐[12]，
佐伯かよ子[9]，長村洋一[13]，登　勉[14]，廣田晃一[15]，藤代欣也[16]，
前川真人[17]，三浦雅一[18]

[1]東邦大学医療センター大橋病院臨床検査部，[2]神戸薬科大学衛生化学研究室，
[3]和洋女子大学家政学群生活科学系，[4]昭和女子大学大学院，[5]三菱化学メディエンス株式会社，
[6]株式会社エスアールエル，[7]株式会社メコム，[8]慶應義塾大学病院中央臨床検査部，
[9]東京文化短期大学臨床検査学科，[10]藤田保健衛生大学医療科学部臨床検査学科，
[11]日東紡メディカル事業部，[12]シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社，
[13]鈴鹿医療科学大学保健衛生学部，[14]三重大学大学院医学系研究科病態解明医学講座，
[15]国立健康・栄養研究所情報センター，[16]協和メデックス株式会社，
[17]浜松医科大学医学部医学科臨床検査医学，[18]北陸大学薬学部臨床化学教室

Comment on Standardization of Serum 25-Hydroxyvitamin D Measurement in Japan

Committee on Nutrition, Japan Society of Clinical Chemistry

Hiroshi Ihara[1], Toshio Okano[2], Naotaka Hashizume[3], Masayuki Totani[4], Kazuyuki Kamioka[5], Kimiko Onda[5], Satoshi Sunahara[5], Tomoko Suzuki[6], Mitsuharu Itabashi[6], Yoshikazu Aoki[7], Midori Ishibashi[8], Shozo Ito[9], Koji Ohashi[10], Tsuyoshi Enomoto[11], Kensuke Saito[12], Kayoko Saeki[9], Yoichi Nagamura[13], Tsutomu Nobori[14], Kouichi Hirota[15], Kinya Fujishiro[16], Masato Maekawa[17], Masakazu Miura[18]

Key words：血清25ヒドロキシビタミンD，標準化，基準測定操作法，比較対照法，NIST SRM

1.　はじめに

ビタミンDは小腸，腎臓および骨におけるカルシウム代謝調節に必要な脂溶性ビタミンである。ビタミンDの栄養状態の評価には血清中の25ヒドロキシビタミンD［25（OH）D］の測定が有用であるが，近年，海外において25（OH）D測定について標準化の必要性が提起されている。